

一 告 告



深津 翔太 (ふかつ しょうた)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
兵庫県立明石城西高等学校出身

「面白い」が溢れている研究室。 「わからない」がぼくを鍛えてくれる。

意欲も高まってきました。何でもやるぞという覚悟で学生生活を送ったからです。それに勉強は学校だけで完結したいタイプで、授業はすごく集中して受けました。不器用だからと謙遜するが、言葉を変えればオンとオフをしつかり切り替える習慣が身についているということ。それは学部卒業時に、人格・学業ともに優秀な学生

金沢工大はチーム活動を重視する大学である。一年次からグループで課題に取組み、問題を発見・解決する能力を身につけていく。集団行動やコミュニケーションが苦手だと感じていた深津さんも、航空システム工学科に入学して、大きな変貌を遂げた一人である。「グループ内で自分の役割が見つけられるようになり、研究への

に贈られる日本機械学会晶山賞の受賞という結果につながった。「岡本研は、面白いことが溢れているんですよ。すぐ実用化に結びつく研究ではなく、何でそうなるのか解明されていないことを多様なアプローチから研究する。わからないことが面白いと考える学生が集まっていて、厳しいけど、研究の難しさを新しいことに取組む楽しさを知ることができます。」指導する岡本正人教授の専門は空気力学、翼特性、生物の飛行・泳法。深津さんの研究テーマは「一様流中で非定常運動を行う翼の空力特性」で、実験方法は、おそらく過去に誰も行ったことがないものだという。そのオリジナルの風洞装置は、ヒーヴィングと呼ばれる羽ばたき運動が計測でき、深津さんも製作に携わった。

「学部四年で就職しようと思学に行った大手メーカーが自分には合わないなど。それに先生から新しい研究を始めるから一緒にやらないかと誘われ興味を持ち、院に進学しました。成果をまとめて日本航空宇宙学会の国際論文として投稿し、先日、受理されました。」就職は京セラに内定。岡本先生が深津さんに合うだろうと薦めてくれた。インターンシップに参加し、チャレンジを重視する会社であり、分析という部署が面白そうだったので、一本に絞った。「ぼくはこの大学でメンタル的にかなり成長したと思う。面接ではそういう自己PRと、いろんな方法でいかに正確な実験結果を出していったかという研究を中心に話したのが良かったのかも。」今までの研究とは違う分野だが、いろんなチャレンジがしたいという深津さん。これからも面白いことへの探求は続いていくのだ。

金沢工業大学
石川県野々口市扇が丘七丁目
電話番号(076)248-1000